

---

# 排水溝

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

排水溝

### 【著者名】

N2428E

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

排水溝から音がする。蓋を開けてみると・・・

(前書き)

冒頭にH口ありますけど内容はホラーです。苦手な方はお控え下さい。

「ん、んむっ、亮一さん、おいふいいです・・・」  
きらりは、亮一の肉棒を口の奥まで入れながら奉仕した。

「あああっ、きらりちゃん、上手」

「亮一さん、大好きです」

きらりが顔を紅潮させながら言つ。

「僕もきらりちゃんの事大好きだよ」

言つが早いが、亮一の一物は射精のサインを出した。

「きらりちゃん、僕イきそうだよ・・・」

「お口の中で出しても、いいですよ」

「ハアハア、じゃあ、いくよ?」

そして、亮一の肉棒から白濁液が発射された。

その刹那、亮一は妄想しよおから現実に移つた。

風呂場のタイル張りの床に飛び散つた自分の白濁液を、シャワーで  
全て洗い流した。

24にもなつてこんな事していいのかと自問しながら、体を拭いて  
服を着た。

ふと、排水溝から『コポ・・コポボ』と音がした。

詰まつているかもしけないとつたが、まだ水が流れないと  
はないのでそのまま放置することにした。

そして、亮一は次の日も風呂場にて趣味に耽つた。

散乱している白濁液を流すと同時に、今回も例の音がなつた。  
流れなくなつた時には高い金を出して業者に頼まないといけないし、  
業者に趣味がバレるのも嫌な亮一は明日の休日にでも掃除しようと  
決めた。

翌日、排水溝等のつまりを直す液体洗剤とカビ落としの洗剤を買つてきた亮一は早速排水溝の掃除に取り掛かった。

蓋を開けると、自分の精子等が詰まつた排水溝が物凄い異臭を放ち、思わず身を引いてしまつた。

亮一は鼻をつまみながら液体洗剤のキャップを外した。

その時、何故か排水溝の中から人の声がした。

幻聴だらうか。いずれにせよ、排水溝の中から人の声がするわけがない。

亮一は液体洗剤をぶちまけようとして排水溝を覗き込んだ。

すると、そこには小人のような生物がいた。

生物かどうかは分からぬが、胎児のような形をしていて、大きさは胎児の半分程に見えた。

すると、その生物の頭が形容し難い動きをして、こちらを見た。

亮一は驚いて声もでなかつた。

(なんなんだ、コレ?)

しかし、次の瞬間亮一の疑問が解決される事になつた。

「オ・・・オトー・・・サン・・・・」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2428e/>

---

排水溝

2010年11月19日17時04分発行